

[012]九州大学低温センターだより表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1932035>

出版情報：九州大学低温センターだより. 12, 2018-03. 九州大学低温センター
バージョン：
権利関係：

巻頭言

平成17年度に開始した伊都地区への大学移転が平成30年度にはいよいよ完了します。現在、低温センターは学内に伊都地区センターと箱崎地区センターを置いていますが、移転完了を機に、箱崎地区センターは閉鎖（ヘリウム液化設備は既に平成27年8月に停止）され、箱崎地区での液体窒素の供給も平成30年8月末に終了する予定です。一方、伊都地区では、これまでの工学研究院、システム情報科学研究院、理学研究院、先導物質化学研究所、比較社会文化研究院などに加え、農学研究院が新たにユーザーに加わります。本年度は、関係部局のご協力とご理解を得て、移転完了後の伊都地区における新しい寒剤供給体制導入のための準備を進めて参りました。伊都地区の寒剤供給に関する現在の課題は次の4点に集約することができます。1) 坂の多いキャンパスにおける寒剤配送に関する安全性の確保、2) 部局ごとで異なる運用体制に起因する寒剤配送効率の低下と費用増大、3) 寒剤供給日数・頻度増加に対する要望への対応、4) 液化施設の老朽化と予算削減に対する対応。これらの課題に対応するため、平成30年4月より低温センターが伊都地区における寒剤供給に関する管理業務の窓口を担い、伊都地区の全部局を対象とした寒剤配送業務に関する委託契約を一本化することと成りました。この事により、1) 伊都地区の全部局に対し、専門業者により寒剤搬送を行うことで配送に関する安全性を確保、2) 統一サービスによる作業の効率化と業務委託費の削減、3) 全部局に対して週5日、一日2回（午前と午後）の配送を実現、4) 配送体制の一本化により必要経費の削減が可能となりました。この移行に伴い、寒剤発注システムでの取扱も若干変更となります。農学研究院をはじめとする伊都地区センターの新しいユーザーにおかれましては、システムへの新規登録手続きをお願いする事となります。詳細は移転時期が近づきましたら説明会を実施する予定です。液体ヘリウムの供給に関しましては、ヘリウムガスの回収・精製・貯蔵システムは増設されたばかりで、農学研究院が伊都地区に移転してきても対応できる能力を有しています。しかし液化機本体の方は設置後10年以上が経過し、更新が必要な時期に来ていますので予算要求など準備を進めているところです。

低温センターの設備は、国内でも有数の性能を有しており、国内外からの多くの見学者の受入を通じて、科学技術に関する情報発信や技術講習会等へも貢献しています。本年度は、高校生向けオープンキャンパスや開学記念事業のほか、さくらサイエンスプロジェクトを通じたアジア地区トップ校からの高校教員グループの訪問や、高圧ガス保安技術継承講座の受入など行っています。また、全学を対象とした保安・安全教育では、伊都、箱崎、馬出、筑紫の各キャンパスで合わせて1000名を超えるユーザーに受講して頂きました。

お陰をもちまして、小職のセンター長としての二年の任期も何とか無事に終え、木村 崇 新センター長にバトンタッチすることができます。皆様のご協力で御礼申し上げますと共に、今後とも低温センターに対する一層のご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

低温センター長 木須 隆暢